

新修

明石市史

通史編 I

明石のあけぼの刊行

明石の自然（地形、地質、人文地理）と考古学からみた旧石器時代から平安時代までの歴史を最新の成果を取り入れ、それぞれの分野の第一人者が豊富な図版とともにわかりやすく叙述。



B5版フルカラー 全430頁
本体価格…2,500円
販売場所…明石市立文化博物館ほか市内書店

近刊予定

通史編Ⅱ「明石の古代・中世・近世」
通史編Ⅲ「明石の近代・現代」

新修明石市史通史編I刊行記念として2026年1月18日(日)に、
明石市立西部市民会館で刊行記念講演・シンポジウムを開催。



明石市

明石市では、2013年(平成25年)から明石市史編さん事業に取り組んできました。その成果の一つとして、このたび「通史編」シリーズの第1冊目になる「明石のあけぼの」が刊行されました。この巻では当地域の地形・地質分野及び考古分野をけん引してきた田中眞吾氏(神戸大学名誉教授)、増田富士夫氏(京都大学名誉教授)、春成秀爾氏(国立歴史民俗博物館名誉教授)が関わり、近年の研究成果も取り入れ、新たな明石の歴史を叙述しています。明石の豊かな地域像、歴史像を多彩な図版とともに知っていただける1冊です。

自然編

- 第1章 明石の位置と環境
- 第2章 丘陵・台地の様相
- 第3章 明石海峡の成立
- 第4章 明石の沖積平野と沖積層
- 第5章 自然環境と人びとの暮らし

考古編

- 序章 明石の考古学的位置
- 第1章 狩猟・採集の旧石器時代
- 第2章 土器と定住生活の縄文時代
- 第3章 稲作と銅鐸の弥生時代
- 第4章 前方後円墳と埴輪の時代
- 第5章 官衙と寺院の時代

体裁・価格：B5判・フルカラー・全430ページ・本体2,500円

販売場所：明石市立文化博物館ほか市内書店

販売方法：下記問い合わせ先または各書店へお尋ねください。

見やすく、読みやすい、新しい市史

★全ページカラーへ

遺物や遺跡の写真もカラーで鮮やかになり、色や質感まで伝わります。



★文字も大きく写真も多い

表現を工夫し、読みやすさを重視した構成へと生まれ変わりました。



原寸

魚住窯と魚住泊の港湾施設が明石地方のことを述べてきたが泊も背後に立地する魚住も重要な港として見逃す窯業地として発展し、

問い合わせ先

明石市市民生活局歴史文化財担当

兵庫県明石市上ノ丸2丁目13番1号 明石市立文化博物館1階

TEL.078-918-5629 FAX.078-918-5633

E-mail : rekishi-bunkazai@city.akashi.lg.jp

「明石旧船町の家」の保存・活用に向けて —戦後 80 年 地域と戦地を結ぶ記録と記憶の発見・発信—



登録有形文化財「旧安藤家住宅」前にて

古民家の保存活用
地域の歴史
戦争記憶の継承

DATA

● 主な連携先・メンバー

明石市（市民生活局文化・スポーツ室歴史文化財担当、市立文化博物館、人権推進課）／一般社団法人すまい研

● 活動地域

兵庫県明石市（主な活動場所：「明石旧船町の家」〈登録有形文化財「旧安藤家住宅」〉、明石市立文化博物館）

● 活動期間

2023 年度～継続中

● 活動資金

地域連携活動に対する補助事業・一般社団法人すまい研

目的

戦後 80 年を迎え、戦争記憶の継承が大きな社会課題となるなかで、地域に残る戦時中の記録の整理作業を進め、その調査研究成果を地域に発信し、共有する。

活動内容

「旧安藤家住宅」は地域のランドマークともいえる豪壮な古民家で、2025 年 7 月に国の登録有形文化財となった。この住宅に伝わったのが、膨大な数を持つ安藤家文書である。これまで 3 ヶ年の活動で約 730 件 890 点の撮影と目録作成を終え、戦時中の明石市からの回覧通知や、戦地からの軍事郵便が多数含まれることを明らかにした。現在、戦争記憶の継承が大きな社会課題となるなかで、同文書はそれを補完するものといえる。また、地域の貴重な歴史遺産でもあることから、その研究成果は広く共有することが望まれる。それゆえ、本事業では

連携に至る経緯

すまい研が主催する「まちづくりアカデミー」事業に参画。連携活動の拠点となる「旧安藤家住宅」から発見された大正一昭和期の膨大な文書群（安藤家文書）の取り扱いが課題となる。移管先となる明石市と連携して、整理・調査活動を行うこととなった。

研究成果の還元にも力をいれてきた。

戦後 80 年を迎えた 2025 年度は、明石市文化・スポーツ室歴史文化財担当及び同市人権推進課と連携して、戦時中の町内回覧に関するパネル展示を実施したほか、学生たちと新たな展示プログラム「戦後 80 年の記憶 戦地と故郷を結んだ軍事郵便」を立ち上げ、明石市立文化博物館や旧安藤家住宅でのすまい研主催イベントにおいて展示を行った。特に、後者のイベントでは、来場者に対して学生達自身が展示解説を行うなど、市民との交流も積極的に図った。

専門家の指導を受けながら
展示作業中



来場者に展示内容を
解説



明石市立文化博物館にて
安藤家文書の調査中

活動の成果

- ▶ 未整理だった文書群の整理が進み、歴史資料として利用できるようになってきた。
- ▶ 連携イベントでの展示や研究報告を積み重ねてきたことで、市民が地域の歴史にふれる機会を提供できた。
- ▶ 連携する組織の多様な職種の方々や他大学の学生たちと、本学学生との貴重な交流機会となった。

今後の課題・目標・展開の可能性

- ▶ 整理作業は進んだが、文書群全体から見ればまだ一部であり、今後も継続した整理作業が必要である。
- ▶ 連携イベントの来場者も回を重ねるごとに増加しており、引き続き市民の関心を高める工夫をしていく。
- ▶ 調査研究成果の共有を図るために、それらのデータの公開方法についても検討していきたい。

連携先からの一言

一つの史料群の整理から調査・分析・展示まで一連の作業を協同して行うことで明らかにできた地域の歴史を、大勢の人に知ってもらえる、そんな素敵な時間を共有させていただき感謝申し上げます。今後ともよろしくお願いいたします。

（明石市市民生活局文化・スポーツ室歴史文化財担当 義根 益美氏）

文学部 教授 高久 智広 Takaku Tomohiro



専門は文化遺産学。前職は神戸市立博物館の学芸員で、近年は博物館や文化財保護の現場での経験をもとに、歴史・文化を活かした地域連携活動に学生とともに取り組んでいる。



再現CG
明石城

江戸時代のお城絵図を元に、当時の姿を3DCGで完全再現。

【明石城再現・城巡りアプリ】

明石城巡り

専用アプリを
ダウンロード
2019年3月23日公開

- ・ 明石城再現3DCGは、全国どこでも閲覧可能。
- ・ 明石城内でアプリを開けば、マップ内の再現CGスポットや謎スポットを巡りながら明石城の魅力を楽しめる。



正面入口(大手門跡)



大手門の再現CG

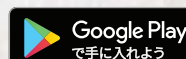
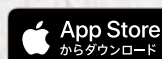


明石城(あかしじょう)

明石城は、1619年に徳川幕府の命で、小笠原忠政(のちの忠真)により築かれました。天守は建てられませんでした、長さ380m、高さ20m超の石垣の上に築かれた本丸の四隅には三重櫓が建てられ、勇壮を誇りました。

現在も400年前の2棟の櫓が残り、城域も当時のまま保全されています。

ダウンロード方法は裏面をご覧ください。





東西380メートルに及ぶ石垣

「明石城巡り」をダウンロードして、明石城を楽しもう！

＜ 明石城再現3DCG ＞



明石城の再現3DCGは指操作で自由に回転・拡大ができ、全国どこにいても閲覧できます。



マップに表示されたスポットを巡ります。明石城を楽しく学べるコースをご用意しています。



城内10ヶ所のARスポットでスマホをかざすと、現在の景色に重ねて当時の様子が再現CGで現れ、写真を撮ることもできます。



謎スポットでは、謎解きをしながら明石城の全貌を知ることができます。クイズの回答数に応じて明石城ゆかりの3次元キャラとのツーショット撮影ができます。

播磨国明石城絵図（はりまのくにあかしじょうえず）を元に、当時の姿を3DCGで再現!!

市民の憩いの場であり、桜の名所として知られる明石公園に、400年の時を超えて明石城を再現。

- ・ 野球場がある場所には、藩主が生活していた居屋敷郭御殿が。
- ・ 陸上競技場がある場所には、宮本武蔵が造った樹木屋敷と呼ばれる藩主の遊興所が。
- ・ かつて本丸に建てられ、現在は失われた乾櫓（いぬいやぐら）と良櫓（うしとらやぐら）を再現。



▲ 播磨国明石城絵図(1644年作成)



▲ 再現3DCG(南方からの明石城全景)

「明石城巡り」をダウンロード

アプリストアで「明石城巡り」と検索。または右のQRコードからインストールできます。ご利用に際しては、位置情報(GPS)をオンにしてからお楽しみください。

■ アプリ利用料は無料ですが、ダウンロードやご利用時にかかるパケット通信料はお客さまのご負担となります。

■ 動作環境:iOS 10以上/Android 5以上

iPhoneユーザーの方



Androidユーザーの方





船上城から 明石城へ



2025.11.13(木)
~ 2026.1.12(月・祝)

【明石時代の明石城・宮内庁】

【開館時間】9:30~17:30 (入館は17:00まで)
【休館日】毎週月曜日
(但し、11月24日は開館、年末年始12月29日~1月3日は休館)
【主催】明石市 【共催】明石市立文化博物館

【観覧料】大人 200 円、大高生 150 円、中学生以下無料

- *20名以上の団体は2割引。
- *65歳以上の方は半額。
- *身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・ミライロID手帳提示の方と介護者1名は半額。
- *シニアいきいきパスポート提示で無料

11月16日(日) (関西文化の日) と12月7日(日) は無料

明石市立文化博物館



ぶんぱくHP

今年度の「発掘された明石の歴史展」は「船上城から明石城へ」と題して、明石地域の中世から近世にかけての城郭を取り上げます。

船上城は、明石川の河口西側に高山右近によって天正年間に築城されたと推測されています。最後の城主小笠原忠真が元和5年（1619）に明石城を築城し、船上城は廃城となりました。

近年、船上城跡や明石城下町跡の発掘調査が進展し、瓦や陶磁器類が数多く出土しています。それらから、城や城下を取り巻く当時の姿が徐々に明らかになってきました。最新の発掘調査成果を通し、明石地域で展開した城郭の歴史を紹介します。



桐文軒丸瓦 (船上城下)



三階菱文軒丸瓦
(明石城跡、兵庫県立考古博物館)



鯉瓦 (明石城跡)



播磨国明石城絵図



織部焼など陶磁器類 (船上城下)



甲小丸 (堀谷城跡、神戸市提供)



- 電車の場合：JR・山陽電車「明石」駅下車、北へ徒歩5分
- お車の場合：第二神明「大蔵谷」出口より南西へ10分、第二神明「伊川谷」出口（東行きのみ）より南へ10分
- 有料駐車場（32台）1台1時間100円（1時間未満の端数は1時間とします）。※駐車台数に限りがあるため、公共交通機関、または近隣の有料駐車場（地図参照）をご利用ください。
- マイクロバスなどでお来館の場合は、事前にお問い合わせください。

発掘された明石の歴史展

船上城から 明石城へ

① 講演会・シンポジウム

2025年12月13日(土)
午後1時00分から午後4時00分

基調講演

「赤色立体図からみた明石の城」
永恵 裕和 (兵庫県立考古博物館)

講演

「明石城築城以前の上ノ丸台地」
春成 秀爾 (国立歴史民俗博物館名誉教授)
「文献から見た明石の城郭立地」
高橋 明裕 (立命館大学非常勤講師)

シンポジウム

永恵裕和 / 春成秀爾 / 高橋明裕
コーディネーター
丸山 潔 (明石市文化財保護審議会委員)

② 講演会

2026年1月10日(土)
午後1時00分から午後3時00分

報告

「船上城の発掘調査成果から」
稲原 昭嘉 (明石市歴史文化財担当)

講演

「CG再現で考える明石城の構造」
本岡 勇一 (城郭研究家)

イベント申し込み方法

□ 下記の期間で明石市立文化博物館のホームページまたは下の二次元コードより、先着順に受付します。

① 講演会・シンポジウム

11月2日(日) 午前10時から12月12日(金)まで。

② 講演会

11月2日(日) 午前10時から1月9日(金)まで。

□ 定員に達した場合は、最初の質問に回答できません。

□ 上記の方法でのお申し込みが難しい場合や、お申し込み後にキャンセルや人数が減る場合は、お電話でお問い合わせください。

□ お問い合わせ

明石市文化スポーツ室 歴史文化財担当
TEL 078-918-5629 日曜・月曜・祝日
以外の9:00から17:30

明石市立文化博物館

〒673-0846 明石市上ノ丸2丁目13番1号
TEL: 078-918-5400 FAX: 078-918-5409



イベント申込み

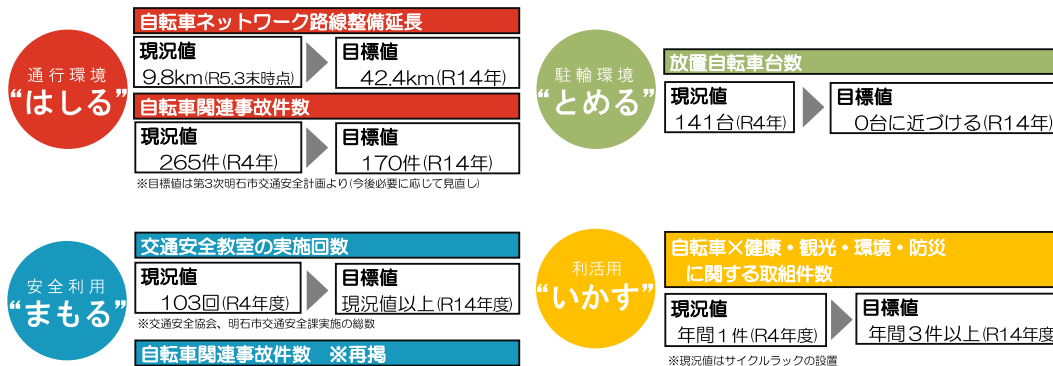
明石市 自転車活用 推進計画

[概要版]



05 計画目標（数値指標）

本計画の基本方針・取組みを着実に実施するための計画目標（数値指標）を、以下の通り設定します。



06 計画の進め方

4つの基本方針“はしる”“まもる”“とめる”“いかす”の取組みを推進するため、道路管理者・交通管理者・関係行政機関、市民や各種関係団体等が相互に連携しながら、PDCAサイクルを展開していきます。



明石市 都市局 道路安全室 道路整備課

〒673-8686 明石市中崎1丁目5番1号

TEL: 078-918-5034 URL: <http://www.city.akashi.lg.jp>

01 計画の策定にあたって

明石市では、安全・安心で快適な自転車利用ができるまちを目指すため、平成29年3月に「明石市自転車利用環境向上計画」（以下、前計画といいます）を策定しました。

前計画策定後に策定された国や県の自転車活用推進計画を踏まえ、自転車の活用による観光施策との連携、環境負荷の低減、市民の健康増進など新たな課題に対応することに加え、自転車通行環境整備などの取組をより一層効果的・効率的に展開していくことを目指し、「明石市自転車活用推進計画」を策定することとしました。

02 計画の理念と基本方針

■計画の理念

自転車通行空間の整備をはじめ、自転車乗車時のルール遵守やマナーアップにより、安全・安心で快適な自転車利用ができるまちを目指します。

また、明石市の実情や特性に応じた自転車の利活用促進を図ることで、健康面・観光面・環境面などにおけるまちづくりへの貢献を図ります。

■基本方針

安全・安心で快適な自転車利用環境の向上を目指し、課題で抽出した「**通行環境 “はしる”**」、「**安全利用 “まもる”**」、「**駐輪環境 “とめる”**」および、環境負荷の低減や健康増進、観光促進、災害時の活用など多様な自転車活用を図る「**利活用 “いかす”**」を加えた4つの基本方針のもと、自転車走行空間の整備、利用ルール・マナーの周知、駐輪場の充実などの取組を展開していきます。

4つの基本方針



03 重点的に取り組む4つの方向性

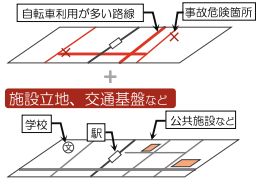
4つの基本方針「通行環境“はしる”」、「安全利用“まもる”」、「駐輪環境“とめる”」「利活用“いかす”」を設定し、安全・安心で快適な自転車利用環境ができるまちを目指します。

通行環境 “はしる”

自転車の通行空間を確保するため、車道内に普通自転車専用通行帯や矢羽根などの路面表示を行い、安全で快適な自転車走行環境の向上を目指します。

■自転車ネットワーク路線の選定

自転車利用特性



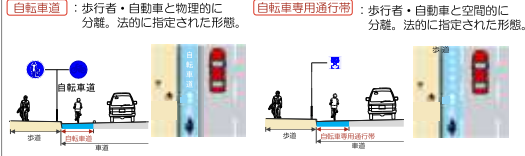
施設や事故箇所等を重ね、自転車利用環境の向上に取り組む路線(将来計画路線)を選定します。

その中から今後10年間の整備を目指す路線(自転車ネットワーク路線)を選定します(下図参照)。

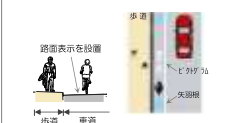
■整備形態の決定

各路線の交通状況にあわせた整備形態を選定します。

整備形態のイメージ



「車道混在」：自転車と自動車とが混在。法的指定のない形態。



■整備後のフォロー

整備後には、整備した自転車通行空間の通行方法等の広報活動を行い、事業効果を高めます。また、代表的な路線について、利用状況などの事後検証を行います。

安全利用 “まもる”

子どもから高齢者まで幅広く自転車の安全利用について啓発を行い、ルール周知・マナー向上を図ります。

全年齢で努力義務化されたヘルメットの着用推進や電動キックボードと併せた対応も図ります。

■兵庫県警察 インフォメーション



■交通安全教室(自転車実技)



子どもから高齢者まで段階的かつ体系的な交通安全教育を行います。

駐輪環境 “とめる”

駐車需要の多い地域などを中心に、利用形態に応じた自転車駐輪場などの整備を推進します。

■駐輪ラックの整備事例



■駐輪場の整備事例



また、自転車の路上放置に対する指導・啓発活動等の取り組みを重点的に推進します。

利活用 “いかす”

健康長寿社会の実現に向けた自転車の利活用、サイクリングルートの整備や広報による自転車を活用した観光の促進、自転車への利用転換による環境負荷低減、災害時における自転車の活用を促進します。

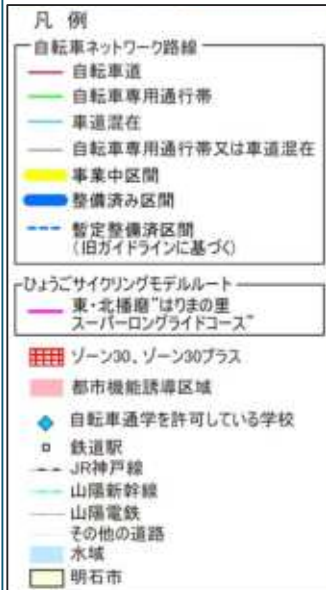
■ひょうごサイクリングモデルルート



04 自転車ネットワーク路線・整備形態

安全で快適な自転車利用環境の向上を図るために必要な路線(将来計画路線)のうち、計画期間である今後10年間で整備を目指す路線を自転車ネットワーク路線と設定し、自転車通行空間の整備を推進していきます。

また、整備後には広報活動や利用状況等の評価といったフォローアップを実施します。



自転車ネットワーク路線の考え方：

自転車利用者が多い主要な鉄道駅及び高校*周辺エリアを中心に、事故が多い、早期に整備着手が可能と見込まれるなど必要性和実現性を踏まえて路線を選定しています。

*自転車通学が許可されている高校中学校を含む

●：主要鉄道駅
●：高校・中学
×：事故箇所



自転車ネットワーク路線の整備形態：

国のガイドラインで示される「自転車道」「自転車専用通行帯」「車道混在」の3つを基本とします。

自転車ネットワーク路線以外の対策：

自転車ネットワーク路線ではない路線でも、喫緊に対策が必要な箇所は、看板・ピクトグラムを活用した通行ルールの明確化等により、安全を図ります。

[illegible]